

群馬県みなかみ町上組区での 実証調査(地域管理構想)の取組概要

- R7年4月より、群馬県みなかみ町上組区において地域管理構想の実証調査を開始。
- これまで同町他地域で取り組んできた産官学金の連携を土台として、地域住民へのヒアリング、ワークショップ、勉強会、意見交換等により検討を行い、R7年度内に地域管理構想の素案作成、R8年度に地域管理構想策定を目指す。

■ 対象地域：群馬県みなかみ町^{うわぐみ}上組区

■ 地区概要

- ・ 位置：みなかみ町南部に位置し、上越新幹線上毛高原駅を中心に南北に3km、東西に1.5kmの範囲。隣接する利根沼田地域、吾妻地域、渋川市の玄関口となっている。
- ・ 人口等：人口500人、195世帯、高齢化率36.6%、若年人口率9.2%(R7.3末)
- ・ 地形：利根川右岸の河岸段丘に集落を形成。標高は540m程度。

■ 検討体制

- ・ 中心組織：住民組織（上組区）、みなかみ町、オープンハウスグループ、東京大学大学院工学系研究科、群馬銀行
- ・ オブザーバー：関係団体、関連企業（交通系事業者等）



【実証調査の応募に至った経緯】

- ・ 上越新幹線沿線に約60haの農地があるが、耕作者の高齢化や後継者不足、離農が進み荒廃化が急速に進行。また、新幹線駅近くの防災重点ため池も維持管理が厳しく、重要インフラの存続が危ぶまれる状況。
- ・ 景観の悪化や防犯対策などへの懸念があることや、優先的に維持したい土地の明確化等も考えたいとして、令和7年2月、公民学連携の話し合いの場を求める要望書を町に提出。
- ・ 「地域全体で話し合う場」を設け、地域資源や利用状況の把握、分析、評価を行い、駅周辺の新たな土地利用や地域の担い手の発掘も含めた地域管理構想の策定を目指すこととした。

【策定に向けた検討課題】

■ 全体

- ・ 歴史的・地理的特性、住民の繋がり等を踏まえた地域の魅力の整理
- ・ ユネスコエコパークやSDGs未来都市など自然と人との共生を根幹に据えたまちづくり
- ・ 当該地域が今後も存続し続けるために、何が必要で、どのような人材が必要か（地域住民・企業を含めた共通認識を探る）

■ 農地・ため池

- ・ 営農意欲等を踏まえた今後のあり方・活用方法
- ・ 絶滅危惧種への配慮等ネイチャーポジティブの観点を取り入れた管理

■ 耕作放棄地・山林

- ・ 針葉樹から広葉樹への転換による水源涵養機能の回復
- ・ 土砂災害への対策



上組地区検討エリア

検討エリア周辺の活動



(上) かいぼり活動によるため池の外来種駆除

(下) 耕作放棄地を活用した湿地環境再生



【R7年度スケジュール（案）】

R7年	6月	話し合いの場の設置
	7～9月	勉強会 住民との意見交換 現況調査 有識者へのヒアリング
	10～12月	検討会 素々案作成 住民との意見交換
R8年	1～3月	素案作成 次年度に向けた検討